

そよかぜだより

第73号
発行 2008.6.15
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

生活保護通院費 2億円シヨックで過剰反応 厚労省、通知撤回、出し直し

北海道滝川市で元暴力団員の生活保護受給者が、通院の際に支給される交通費(通院移送費)を、2億円も不正に受給していた事件がありました。2億円という途方もなく大きな金額は社会にシヨックを与え、広く報道されました。これを受けて厚労省は今年4月1日付けの都道府県あて通知で「最低限度の移送で、最小限度の実費を支給する」という従来基準をより厳格化し、災害現場や離島からの搬送以外の場合は例外的にしか通院費を支給しないようにしました。

これがきっかけに、全国各地で支給の打ち切りを通告される受給者が続出しました。このため「治療が受けられなくなる」という受給者からの声が全国に沸きあがりました。このため厚労省は6月10日、4月の通知を事実上撤回し、必要な人には従来通り支給するよう自治体に求める再通知を出しました。「例外的給付とは、原則として通院費を支給しないという意味ではない」と強調し、画一的に支給を打ち切るのではなく個別事情に配慮して審査するよう求めました。

声が全国に沸きあがりました。このため厚労省は6月10日、4月の通知を事実上撤回し、必要な人には従来通り支給するよう自治体に求める再通知を出しました。「例外的給付とは、原則として通院費を支給しないという意味ではない」と強調し、画一的に支給を打ち切るのではなく個別事情に配慮して審査するよう求めました。

が原因でした。衝撃的な事件があると、とかく過剰反応があるようです。いま大きな見直しがされている自立支援法でも、はじめあまりにも「自立」を強調しすぎたため、過剰反応があつて問題が噴出しました。自立を打ち出すこと自体は「福祉とは保護すること」とする古い考えを変えるために必要なことでしたが、過激になると過剰反応を招きます。少し冷静になって見直しがされ、それを重ねていくうちに丁度よいところに落ち着くことを期待したいと思います。

深刻・福祉の人材不足
全国社会福祉協議会・中央福祉人材センターが5月27日に公表した「2007年度職業紹介実績報告」で、07年度の平均有効求人倍率が1.28倍となり、3年連続で1倍を超え、福祉の業界では深

刻な人災不足が続いていることが明らかになりました。特に深刻なのは高齢者の在宅サービス分野で8・51倍です。知的障害者は0・66倍、身体障害者は0・55倍、精神障害者は0・26倍と、高齢者分野より恵まれた数字になっています。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855
くれよん5月の売上げ
843,870円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

ご協力ありがとうございました。	5月の募金	51,865円			
(順不同)	20年4月~20年5月の合計	80,128円			
居酒屋たんぽぽ	様	高橋 典子	様	北野 浩美	様
帯刀 進	様	とまと美容室	様	清水 賢	様
大野 元雄	様	加部 妙子	様	清水 知子	様
森田 勝	様	長谷部 さえ子	様	古沢 奈保美	様
井上 誠一	様	濱野 岬	様	村野 理子	様
山下 暉枝	様	国本 昭治	様	平岡 知子	様
袴田 実	様	田中 明子	様	山田 隆章	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	関谷 孝子	様
角野 克子	様	角野 満壽子	様	草間 哲夫	様
竹内 照夫	様	阿部 郁子	様	桜沢 喜作	様
天満 喜代子	様	斉藤 忠	様	関谷 博	様
下田 コウ	様	土屋 三枝子	様	関村 理	様
吉野 満里子	様	渡辺 四郎	様	関谷 英希	様
田中 稔	様	橋本 亜紀子	様	山影 幸子	様
小沢 達子	様	平野 嘉子	様	永岡 智恵子	様
エイ・アイ	様	ア-サンカワノ	様	川崎 利男	様
関谷 達夫	様	関谷 和子	様	ア-バンディックス	様
匿名様 (1,754円)					

NPO法人 **そよかぜ** の

《資源回収》

にご協力をお願いします

新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

5月は27,220tでした。金額は585,006円となりました。この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

7月は第3日曜日20日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

外見だけでは分からない部分を見抜く力

科学が及ばない人間の直感力

アスペルガーの人と、うつ病患者の母親の話

自閉症のAさんは、同じ言葉や動作を何回も繰り返したり、知的障害もあつて簡単な会話しか出来ないの、だれがみてもすぐにそれと分かる症状です。Bさんはアスペルガー症候群で知的障害はありません。会話は自由にできません。話題は政治、経済にわたり、日本の福祉の問題点を語らせる職員もたじたとするありさまです。それでもアスペルガーのために対人関係などが苦手で就労できずにひびり園にきました。

AさんとBさんを比べてみると能力に大きな差があるの、二人に共通点などはまったくないものと思つていました。ところがある時、Bさんが「Aさんを見ていると、自分と同じだなあと思います」というのを聞いてびっくりしました。なぜそう思うのかぜひBさんに聞いてみたいと思ひながらその機会がなく時間

いとAさんとBさんの動きはまるで違いますよ、とても同じには見えませんが」

「いえ、実は私もAさんと同じ動きを心の中でしているんです。ただそれをする周囲に迷惑になりそうとか、変に思われそうだと抑えているんです。Aさんは知的障害もあつて素直だから、心の中をストレートに外に出すだけだと思ひます」

Bさんのアスペルガー症候群も広い意味では自閉症の一種類です。「自閉スペクトラム(傾向)」といわれることもありす。だから深いところでは共通点があるのでしよう。ふーん、そういうものかとBさんの話を聞いて大いに勉強になりました。

このことがあつてから数日のちに一冊の本を見つけた。ダニエル・スティールというアメリカの女性作家が書いたものです。この人についてはこちらからみて

ベストセラーになつていて、いまアメリカで最も人気のある作家だそうす。私はまだ一度も読んだことはありませんが、彼女が初めて小説ではなく、重い精神病に苦しんで死んだ自分の息子について告白したという本を、宣伝文句に引かれて読んでみました。参考になりそうな部分だけをかいつまんで紹介すると次のような内容です。

小説家の彼女は、最愛の息子が幼児の頃からこの子はどこか異常だ、普通ではないと感じていました。どこがどのように異常なのか作家である彼女にも言葉で説明できないような微妙な感覚でした。

そのことを人に相談してもだれもまじめに相手にしてくれませんが、そこで、精神科医、セラピストなどの専門家に相談し、診察も受けましたが「すばらしいお子さんだ、何の心配もない」と言われるだけです。息子が学校に通うようになって先生にも相談しましたが「成績はすば抜けて優秀だし、問題はどこにもない」といいす。そう言われると母親として嬉しいので、彼女は

「もしかするとこの子はまれにみる天才かもしれない」と心の一部で思ひましたが、不安は消えませぬ。成長するにつれて息子の行動は誰がみても異常が分かるようになり、学校の先生も「問題児」だと言ひ始めます。「彼の頭の中にデーモン(悪魔)がいる、それが彼を操つている」と彼女は表現してあります。

すでに有名作家となつていた彼女は、手をつくして息子の病気を治療してくれる専門医を探し、息子が十六歳のとき、ついに名医を見つけます。その医師によつて息子の病気は「強うつ状態と躁状態を繰り返す幼児双極性障害」と診断され、薬物療法に入りす。薬は劇的な効果を發揮します。薬は本当に効いた！それは彼を救つた！その薬が彼に与えた効果を思ひ出すにつけても、私は永遠に、称賛の歌をうたいたいと思ひ」と彼女は書いてあります。

薬の効果で病気から開放された彼は、持ち前の才能を發揮してバンドリーダーとなり一躍若いスターになります。母は有名作家、息子はスター、

二人は2年ほど人生の絶頂期を経験します。しかし息子はメンバーとの人間関係がもつたでバンドが解散状態に追い込まれ、悩んだ彼はかつてのうつ病を再発します。勝手に薬を中断して病状はさらに悪化し、ついに十九歳で自らの命を絶ちます。

本のあとがきに彼女は次のように書いてあります。

「息子の死が話題となつたおかげで、いまでは五、六歳の児童が同じ病名を与えられるようになった。息子の場合は薬物投与が遅きに失した。この薬は早期に与えると卓効があることがわかつてきた。希望はある、夜明けは近づいている。これからは救われる人も多くなるだろう」

先のBさんも、この母親もその直感力には驚きます。これは現代の科学や医学がまだ及ばない領域でしよう。障害ある人と接するにあつて外見だけでなく、裏にある真実を直感で見抜けるようになりたいものです。容易にできる技ではないでしようが、そのつもりで努めれば見方も変わつてくるはずす。